



秋田をこくる建設人

Vol.08

建築板金

佐藤 優也さん(30代)

(株)剛板金【秋田市】

キャリア10年



時代が変わっても変わらない技と、  
時代に合わせ変えていく技  
機械化が進むほど光るのが「職人技」



板金工としての父親の背中を、幼いころから見て育った佐藤優也さん。高校卒業後いったん地元を離れたが、秋田に戻り家業の板金の道に入った。真剣なまなざしで職人へのリスペクトを語ったかと思えば、「自分も『難しいことにどんどん挑戦したい』とか言った方がいいのかな?」と笑いながらインタビューに答える姿は、いかにも新しい時代の建築板金職人だ。

### 仕事の「やりがい」は?

職人技というか、手作業でしかできない仕事という点ですね。古い家の屋根の改修に行くと、昔の職人たちの仕事が見えてくるようで面白いです。昔の屋根は作りが複雑なんです。同時に、横にいる親父がそういうやり方をよく理解しているのを見ると、昔の職人なら通る道なんだろうなと、経験の差を感じます。心の中では「負けたくない」と思っていますが、そこはまだまだ実績が足りないの、今はひとつひとつの仕事をきれいに仕上げることに集中しています。

### 建築板金の仕事とは?

建築板金にもいろいろありますが、うちは主に屋根板金をやっています。雨樋、雪止め、水切り、破風など、屋根に関することをやる「屋根屋」です。住宅の新築工事が多いですが、改修工事もやります。2021年の冬、秋田市の民間企業の\*倉庫屋根修繕工事に入ったことがあります。通常、カバー工法で施工しますが、この時は悪天候で既存の屋根がはがされてしまっていたこともあり、結局下地の鉄骨から修繕する大工事になりました。幸い天候とチームワークに恵まれ、数日のうちに復旧できました。

### 目指す職人像は?

昔ながらの職人たちは、屋根屋であっても大工仕事もするし、電気関係も詳しいんですよ。そういうのを見ていると、自分ももっと建築全般について勉強してみたいなと思います。屋根の仕事は、必ず塗装や下地の修理のような他の工事も絡んでくるので、知識をつけて柔軟に対応できたらいいですね。ただ、広く浅くではダメなので、まずは屋根に関して極めていかないといいなと思います。まだまだ分からないことも多いですけど、経験が増えれば、自信が変わっていくと信じて、日々できることをやる。それを繰り返すしかないなと思います。

キャリアアップ

CAREER UP

2012年  
板金業へ

2015年(4年目)  
2級建築板金技能士  
取得

2018年(7年目)  
1級建築板金技能士  
取得

仕事の傍ら協会主催の技能講習に参加して資格を取得

研削砥石、高所作業、玉掛けなど、その他にも業務に必要な様々な資格を取得

### コロナに襲っているプロジェクト

\*倉庫屋根修繕工事  
(2021年/民間企業)

冬の悪天候により倉庫の屋根が被害をうけ、年始早々の工事となった。普段の住宅の屋根と違い、鉄骨造りの大規模な修繕だったため、印象に残っている。



佐藤 優也さんの  
もうひとつの  
物語



### 受け継がれる子育ての言葉

「好きなことをやればいい」という父親の言葉もあり、小学生の頃からサッカー一筋。秋田県の強豪校に進学し、全国大会経験もある佐藤さん。今も子育ての傍ら、社会人サッカーやフットサルで時々汗を流している。息子さんにもサッカーをやってほしいかとの問いに、「やってくれたらいいなとも思いますけど。でも自分の好きなことを見つけてくれたら、それでいいかな」と笑った。父の言葉は、佐藤さんの子育てにも受け継がれている。

